

たばこ編

< なくならないたばこ火災 >

“たばこ”による火災は、全国的に出火原因の上位を占めています。当市でも、毎年、火災件数の約 10%を占め、常に火災原因の上位にランクされています。近年、健康志向の高まりや健康増進法が施行され、喫煙者は減少しているようですが、残念ながら「たばこ火災」は減らない状況です。

< たばこの危険性 >

喫煙は、起床から就寝までたえず行なわれ、時と場所を選びません。たばこは喫煙者とともに移動し、他の火気のように固定した場所を必要としません。

ですから、たばこ火災は、私たちの生活の場のいたるところで発生する危険性があります。また、たばこの燃焼の仕方は“無炎燃焼”と呼ばれ、炎を上げないで燃焼するのが特徴で、中心部の燃焼温度は 700~800℃にも達し、放置すると14~15分間も燃焼し続けるというデータがあります。

喫煙者がこのような知識を十分持っていないことや、炎が見えないため火を取り扱っているという認識が少なく、たばこを無造作に扱うことにつながり、火災発生の原因になっています。



< 主な出火経過 >

たばこによる主な出火経過として、以下のものがあげられます。

- ・ 完全に火が消えていない吸い殻をごみ箱に捨て出火したもの。
- ・ 投げ捨てた吸い殻が枯れ草やごみに着火し出火したもの。
- ・ 誤って布団やごみ箱に吸い殻や火種が落下し出火したもの。

< たばこ火災の特異事例 >

▼ 布団に挟まったたばこの火は消えません！

火のついたたばこがいつの間にか布団の上に落ち、気付かずに布団をたたみそのたばこを挟み込んだまま押入にしまったらどうなるでしょう。

たばこの火は消えず布団に着火します。火のついた布団は炎を上げないでゆっくりと燃焼を継続(無炎燃焼)し、燃焼した布団が他の可燃物と接触したり、空気の流入など条件が整うと、炎が立上がり火災になります。

外出して2、3時間後に火災になることがあるのは、このような経過をたどるからです。

▼ たばこの灰皿はいつもきれいに！

たばこの吸い殻でいっぱいになった状態のガラス製灰皿に、火が完全に消えていない吸い殻を捨てるとどうなるでしょう。

たばこの火種が他の吸い殻に着火し灰皿を加熱、内側と外側の熱膨張の違いから灰皿が破損し、火のついた吸い殻が周囲に飛び散り、これらが紙等の燃えやすいものに着火し火災になります。

ガラスの材質や灰皿の大きさにもよりますが、20分前後で破損したというデータもあります。

こまめに吸い殻を捨て灰皿に吸い殻を溜めないようにしましょう。

また、陶器製の灰皿も同様に破損する危険性がありますので注意しましょう。



< たばこ火災を防ぐには！ >

- たばこの投げ捨ては絶対にしない。
- 歩きながらの喫煙やくわえたばこはしない。
- 寝たばこは絶対にしない。
- 火のついたままのたばこを放置しない。
- 灰皿にはいつも水を入れておく。
- 灰皿は置く場所を決めておき、その場所で吸う。
- たばこは水をかけてから生ごみ等と一緒に捨てる。
- 寝具類、座布団、カーペットは燃えにくい「防災製品」を使う。

飲酒後にたばこを吸いながら寝込んでしまったとき、火災になっても気づくのが遅れて、一酸化炭素中毒で亡くなることがあります。「寝たばこ」は絶対にやめましょう。

